

[成果情報名] 諫早湾干拓地における秋冬ダイコンの収穫期の判定

[要約] 諫早湾中央干拓地における秋冬ダイコンの収穫期は、2℃以上の有効積算温度が950℃前後に到達する時期で、L級比率が高く、一斉収穫が可能となる。

[キーワード] 諫早湾干拓、ダイコン、有効積算温度、L級比率、一斉収穫

[担当] 総合農林試験場・企画経営部・干拓科

[連絡先] 電話0957-35-1272、電子メールyamasaki0106@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 総合・営農(干拓)

[分類] 指導

[背景ねらい]

諫早湾干拓地における大規模営農では、一斉収穫体系が前提となる。

秋冬ダイコン栽培について生育積算温度と収量及び規格割合を把握し、収穫期の判断について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 秋冬ダイコンは平成13年～15年の生育及び収量から中央干拓地における栽培適性は高い(表1)。
2. 生育積算温度と規格割合との関係から、目標とする出荷規格にあわせた収穫期の判断が可能となる。
商品性の高いL級比率は、2℃以上の有効積算温度が900～1,000℃の範囲で高くなり、一斉収穫が可能となる。(図1、図2)
3. 2002～2004年の中央干拓地の平均気温で、有効積算温度が950℃に到達するのは、9月11日播種で11/5、9/21播種で11/26、10/1播種で12/25となる。(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 諫早湾干拓営農対策指針策定の基礎資料とする。
2. 目標とする出荷規格にあわせた収穫期を判断し、出荷計画等に反映できる。
3. 栽培期間中の降雨量(有効積算雨量)が、平均的な年で適用する。
4. 経営規模と収穫労力、作業能率を考慮し、収穫期の幅を設定する。

[具体的データ]

表1 ダイコンの生育積算温度と根重、収量

年次	播種日	収穫日	栽培期間 (日)	有効積算温度 (°C)	有効積算雨量 (mm)	重量/本 (g)	総収量 (kg/10a)	商品化収量 (kg/10a)
13年	9/26	1/10	106	1,038	164	1,347 ±257	8,758	8,466
14年	9/24	1/10	108	1,002	350	1,835 ±465	11,926	10,705
15年	9/21	12/18	88	1,157	199	1,361 ±258	8,844	8,844
平均			101	1,066	238	1,514	9,843	9,339

- ※1 有効積算温度は発育限界温度を2°Cに設定して算出
平成13年の定植から11月5日までは小江の平均気温を代用
- ※2 有効積算雨量は30mm/日以下の降水量の積算
- ※3 品種:「くらま」「てんぐ」
- ※4 施肥 元肥N-21 P-25 K-20kg/10a 追肥N-6kg/10a

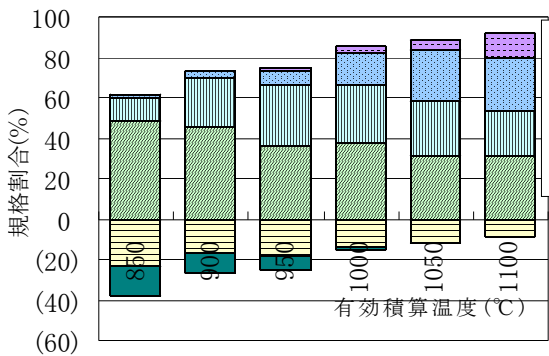


図1 生育積算温度と規格別割合(平成13年)

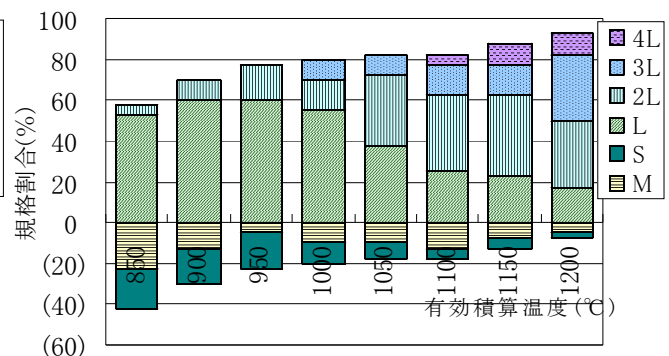


図2 生育積算温度と規格別割合(平成15年)

表2 ダイコンの出荷規格

4L	1.7 kg以上
3L	1.5 ~ 1.7 kg
2L	1.3 ~ 1.5 kg
L	1.0 ~ 1.3 kg
M	0.85 ~ 1.0 kg
S	0.75 ~ 0.9 kg

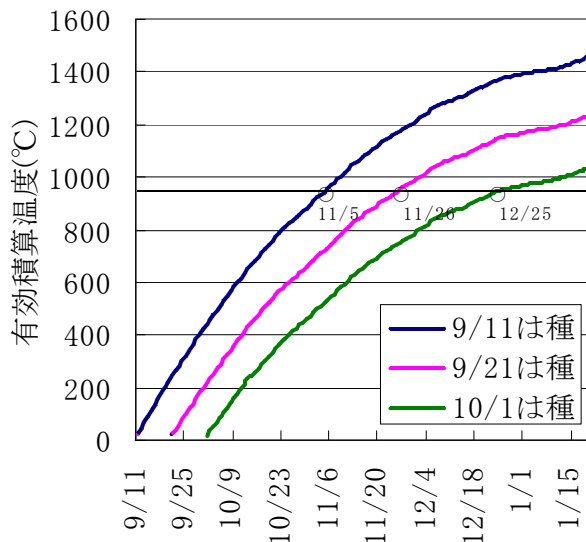


図3 播種期別の生育有効積算温度(中央干拓地2002~2004平均)

注: 栽植様式: 畦巾120cm × 株間25cm × 2条 6,500株/10a

[その他]

研究課題名: 2) 諫早湾干拓営農対策試験(2)営農対策試験①作物適応性試験

予算区分: 県単

研究期間: 2001~2003年度

研究担当者: 山崎和之、黒川陽治